

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2370400752
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会
事業所名	街かどケアホームゆうか
訪問調査日	平成21年4月2日
評価確定日	平成21年5月15日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2370400752		
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームゆうか		
所在地	名古屋市西区中小田井二丁目425番地 (電話) 052-505-5550		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年4月2日	評価確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】(平成21年3月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年5月15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 9人, 非常勤 5人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年3月6日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名	
要介護1	7名	要介護2	4名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	1名			
年齢	平均	79 歳	最低	52 歳	最高	97 歳
協力医療機関名	加藤医院・加藤歯科					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの近くには、中小田井公園や小学校があり、3階建てのホームは周りの環境に溶け込んでいる。地域密着型サービスの役割を理解し、1階を地域へ無料開放したり、子ども達のために常時アイスクリームを提供したり、図書コーナーを設けたりし、地域との交流に努めている。入居者が言葉にされない願望やニーズを先読みし、想像もしなかったサービスで「満足」を越えて、「感謝から感動」を生むこと、また、愛されるホームを実現し、その感動を家族や地域へ広げることを前向きな姿勢で取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については、地域との関わりを積極的に行っていることから理念の変更は行わなかった。食事については食材の搬入に替え職員が調理を行うようにした。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価については、振り返り反省し自分自身を改めて見直すよい機会として位置づけている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは町内会長、ホーム協力医療機関の看護師、地域の小学校教員、家族、入居者、職員となっており、2カ月に1回開催されている。会議では入居状況や活動報告、意見交換がされている。会議の内容は誰もが見ることができるようホーム内に掲示している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関には、気づいたこと、思いついたことなどを募集するアイデアボードが掲示されている。直接書きづらい人には、「日常生活や介護に関すること」「施設建物や設備について」「その他の気づき」などの記入用紙が用意されている。苦情などがあつた場合は、管理者が対応し職員全員に通知される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	日中は玄関は施錠せず自由に入出入りすることができる。1階は図書室、コミュニケーションルームを開放しており、子ども達が卓球をしたり町内会の会合を開いたりしている。調査日には子ども達が卓球をしに訪れていた。地域の盆踊りには、職員数名が模擬店に参加した。ホームの夏祭りには、近隣の方や子ども達が100人集まり盛大に行われた。今年は町内の組長に指名され、1年間務めることになっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ノーマライゼーションの考え方にに基づき、高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現が出来る地域福祉の構築を目指す」を理念に掲げている。理念は法人の理念であるが、職員と話し合いホームの理念として位置づけた。入居者が地域の中で自立した自分らしい生活を、地域にはホームを開放し理念に反映した取り組みがされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰もが見やすいように玄関、事務所に掲示している。職員は出勤時に確認してから業務に入っている。また、申し送りや会議においても日々の行動が理念に沿って行われているかを確認している。管理者と職員は常に理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日中は玄関は施錠せず自由に出入りすることができる。1階は図書室、コミュニティールームを開放しており、子ども達が卓球をしたり町内会の会合を開いたりしている。調査日には子ども達が卓球をしに訪れていた。地域の盆踊りには、職員数名が模擬店に参加した。ホームの夏祭りには、近隣の方や子ども達が100人集まり盛大に行われた。今年は町内の組長に指名され、1年間務めることになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については、地域との関わりを積極的に行っていることから理念の変更は行わなかった。食事については、調理済みの食材を用意していたが食材のみ納入してもらい、職員が調理を行うようにした。今回の外部評価については、振り返り反省し自分自身を改めて見直すよい機会として位置づけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは町内会長、ホーム協力医療機関の看護師、地域の小学校教員、家族、入居者、職員となっており、2カ月に1回開催されている。会議では入居状況や活動報告、意見交換がされている。会議の内容は誰もが見ることができるようホーム内に掲示している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が事業所の実状やケアサービスの取り組みについて月1回、市の担当者と面談を行っている。また、必要に応じて報告と情報の収集に努めている。今年から近隣の清掃を定期的に行えるよう市へ申請を行った。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問は多く、来訪時に入居者の状況や様子について報告している。不定期ではあるがホーム便りを発行し、写真などを同封して家族に送付している。入居者が家族に電話をする時も報告をしている。その他にも入居者の状態に変化が生じた場合には、電話で連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には、気づいたこと、思いついたことなどを募集するアイデアボードが掲示されている。直接書きづらい人には、「日常生活や介護に関すること」「施設建物や設備について」「その他の気づき」などの記入用紙が用意されている。苦情などがあった場合は、管理者が対応し職員全員に通知される。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はなく、各ユニットで固定されている。2~3階合同で行事などを行い交流を図っている。パートナー室があり、職員は休憩時間が確保されている。ボーリング大会、忘年会、新年会や懇親会が年何回か開催されており、職員のストレス軽減に向け取り組んでいる。職員の半数以上が常勤の体制を取っており、職員の離職により入居者へのダメージがないよう、全職員が同じ対応ができるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修はホームより職員に情報提供されており、希望者は勤務変更などの調整をし参加している。法人内で職員のスキルアップのための試験制度があり、昇給、昇格の仕組みがとられ人事考課の参考になっている。毎月の会議の後、必要に応じて入浴介助、食事介助等勉強会を行っている。今後は、定期的に講師を招き勉強会を実施していきたいと考えている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日本地域福祉協会グループの職員とブログでの意見交換をしている。基本的に職員は、全員書き込みを行うことになっている。ブログは毎日更新される。西区内にあるグループホームの勉強会には常勤職員、非常勤職員関わらず参加している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に自宅等を訪問し、本人や家族と面談を行い本人が何を希望しているのか十分に話し合い、安心して入居してもらえるように心がけている。見学してもらったり、体験入居をしてもらったりしている。また、ホームに馴染めない方には毎日ホームへ通うことから始め、時間をかけて徐々に馴染んでもらえるよう支援している。入居後は担当職員がコミュニケーションを取りながら、本人のしたい生活をサポートしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で調理や掃除、洗濯物干しなどを入居者と職員が一緒に行っている。園芸の好きな方は庭で野菜を育て収穫を楽しみにしている。職員は人生の先輩として入居者を敬い、声かけに注意しながらコミュニケーションを大切に、多くの場面で元気をもらったり、助けてもらっている。支援される側ではなく、一緒に支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に家族、本人より生活歴などを把握し、入居後はコミュニケーションを取り、本人の希望や意向を汲み取り、入居者の意思を尊重し支援している。1日の様子が分かるように細かく記録し現状の把握に努めている。職員は出勤時に記録を確認しており、全員で情報を共有している。本人の希望する行いたいこと(カメラ、カラオケ、将棋等)は個別に対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常の会話の中から入居者の思いや意向を聞き、家族の要望や意見は来訪時や家族連絡時などに聞いている。計画作成担当者は生活の主体者である入居者の思いや心身の状況、及びその置かれている環境を踏まえ、家族の意向や職員の気づきなどを反映した介護計画を作成している。入居者の思いをどのように実現するのか具体的なサービス方法を細かく記載した介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には6カ月に1度見直しをしている。見直しをする前に計画作成担当者で総括チームで継続か見直しかの話し合いを行い、モニタリング記録表を作成している。職員は入居者の様子を日々の申し送りや月1回のケアプラン会議などで話し合い、何かあればその都度、計画作成担当者に伝えている。入居者の変化に合わせ見直しをしており、現状に即した介護計画になっている。変更した時は直接職員に伝え情報を共有している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>完全個別ケアを特色としており、入居者がしてほしいことの実現に向け、職員はパートナーとして日々生活を共に過ごし、買い物、映画、美容院、カラオケなどに出かけている。事業所の車に社名を書かず、介護されていることが分からないよう配慮している。入居者と家族、職員で夜なばなの里に行ったり、誕生会を喫茶店でお祝いすることもある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の医院がすぐ向かい側にあるので、定期的に受診している。また、受診が困難な時には往診をお願いしている。本人や家族が希望するかかりつけ医でも受診することができ、職員が付き添い受診結果を家族に報告している。家族アンケートにも「医療機関への診察など家族以上に協力してくれる」と評価を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「利用後、著しい体力の低下、症状の悪化、認知症状の重度化など共同生活が困難と判断された場合はサービスを中止する事ができる」と入居時に説明している。しかし、医療的行為がなく入居者がホームでの生活を望まれるのであれば、最大限の努力しターミナルケアを考えている。以前、入院はしたくないと本人の希望から定期的に家族や職員、医師で話し合い、2週間毎に受診していたが急変して病院で亡くなられた方がいた。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の関わりの中で職員は入居者の誇りやプライドを傷つけないよう心がけている。接遇マナーの研修会を行い言葉遣いに気をつけているが、時と場合でそれぞれ入居者が喜ぶような声かけを行っている。記録や申し送りはパートナー室で行い入居者のいる場所ではしないよう配慮している。個人情報に関する書類は鍵のかかる書庫に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活パターンを把握し、自分でできることは行ってもらい、職員は声かけや見守りをしている。本人の意思を重視し、喫煙される方や一人で外出する方もいる。自宅に仏壇を置いている入居者には、職員が毎日同行してお花を供え、水を換えたり庭に水やりをすることを日課としている方もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど職員は声かけしながら入居者と一緒に行っている。訪問時入居者が漬物を切っている姿が伺えた。昼食と夕食は食材屋の宅配を利用しているので献立は業者の栄養士が作成しているが、今後は入居者のリクエストの日を設けていきたいと考えている。庭の畑で収穫した季節の野菜(大根など)が食卓に出ることがある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は決めていないので入浴に関してアセスメント(温度、入浴の仕方など)を基に本人が希望する時に入浴を楽しんでいる。入浴したがりない方にはいろいろ声かけして入浴してもらっている。お風呂の湯は毎回掃除を行ない交換している。一人で入浴を楽しまれる入居者には適時声かけや様子をうかがうなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が「やりたいな、したいな」という気持ちになるような声かけを職員は常に心がけている。個人で新聞を取っている入居者は毎朝玄関に取りに行き各階に届け、テレビ番組欄をコピーしてリビングに貼っている。また毎晩ゴミ出しを行い玄関を施錠してくれる入居者など経験を活かした役割を作り出す配慮もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、可能な限り個別ケアを支援している。その日の入居者の状況に応じて買い物や喫茶店、カラオケなどに出かけたり、自宅の仏壇に花を供え水を代えに毎日職員と帰る入居者もいる。訪問時カメラを持参して一人で出かけた入居者がいた。また、企画して3,4人で散歩や外出(花見、名古屋城など)することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアの大切さを意識し、日中玄関など施錠せず自由な暮らしを支援している。入居者一人ひとりのアクションを見逃さないよう気を付け、外出されそうな時は声をかけ一緒に付き添うなど、その時々に合わせて対応している。居室の鍵は入居者の意思に任せてあり、鍵を個人で管理している方が数人いる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災マニュアルや火災発生時の対応など作成し、年に2回「非常時に備え消防設備の使い方の確認と誘導の確認」を職員で行っている。設備点検は定期的に業者に依頼して実施している。災害時の備蓄品などは4～5日分倉庫に用意している。</p>		<p>職員間で非常時に備え訓練を行っているが、いつ起こるか分からない災害に備え、入居者と共に避難訓練を実施されることを期待したい。また、地域の方の協力が得られるような体制作りといろいろな場面を想定した訓練を実施されることも期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取量の状況把握が必要な入居者は食事の確認表を作成し、細かく記録している。水分量は1日1以上を目安にし、常時リビングのテーブルにお茶とコップが置いてあり、いつでも飲むことができる。身体状況に応じて食事形態(とろみを付ける、ほぐす、小さく切るなど)を個々に変え支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には職員紹介の写真を貼ったボードが置いてある。居室を挟んで中央にリビングと対面式の台所があり、調理しながら入居者と会話したり、様子を見守ることができる。壁には写真展と題して入居者が撮影した花の写真や入居者の写真などが飾られている。入居者の状況を見ながらソファやテーブルなどの配置を変え、心地よく生活ができるよう配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入口には木製の表札があり、自分の部屋が分からない方には「さんねる部屋」とドアに貼っている。部屋には洗面台があり洗顔や歯磨きをすることができる。入居者の馴染みの家具やパイプハンガー、テレビ、ラジオカセットなどを置き、壁にはカレンダー、映画のポスター、地図、バス時刻表など飾りそれぞれ居心地の良い居室になっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。